

目 次

序	菅原 廣一	
第1章 通級による指導の場における教師の役割		
研究の背景・経緯		1
通級指導教室担当者の役割	佐藤 紘昭	3
事例研究「教師の役割の実際」		
○事例1：元担当者のできること—連絡帳を通しての連携—	鈴木 敏夫	7
○事例2：教室内の役割分担	伊澤 浩仁	10
○事例3：ケース会の実際	小林 倫代	14
○事例4：保護者との連携について	多田 典生	18
○事例5：早期教育・療育への役割	田中 隆司	21
○事例6：小学校における幼児・中学生の指導	久保山茂樹	24
まとめと課題		28
第2章 障害状況における関わり手の役割と言語指導		
研究の背景・経緯		33
関わり手の役割としての「関係援助」		
・指導日記をもとにした関係の分析と援助の視点の整理	牧野 泰美・松村 勘由	35
・関係援助における指導日記の役割	牧野 泰美・松村 勘由	39
・関係援助の視点からのケース会議の役割	牧野 泰美・松村 勘由	41
・関わり手の内省 1	磯崎 ミヨ	44
・関わり手の内省 2	真壁 成子	47
・同僚の目から見た関係の変遷	山部 祐子	50
事例研究「関わりにくさ、通じあいにくさへの援助」		
○事例1：関わりにくさを感じる子どもへの援助のあり方		
—関わり手の内面の振り返りによる—	青山 新吾	54
○事例2：養護学校における関わりにくさ、通じ合いにくさへの援助	岩塚 政司	58
○事例3：知的障害者のコミュニケーションについて		
—施設職員の立場から—	管野 幸美	62
○事例4：就学に関わる関係援助	原 広治	66
○事例5：ことばの教室における関係への援助	松村 勘由	71
まとめと今後の課題		74